

ひぐち明の活動報告

一般質問

現在、県議会 国際交流推進議員連盟の会長を務めている関係から左記の質問をしました。

樋口 オーストラリアとの交流について

知事 オーストラリアは日本と時差がほとんどなく、そして、英語圏であり、日本語を学ぶ高校生が多いという特徴があることから、オンラインを活用した両国の高校同士の語学交流などが期待できるということでニューサウスウェールズ州政府と意見が一致した。

このため、スポーツ、観光に加えて、新たに教育分野についても、交流の可能性があると考えている。

来年度、私自身が現地を訪問し、州政府の代表と今後の交流分野について、改めて意見交換を行い、交流の取組を前に進めていきたい。

樋口 インドとの交流について

知事 本県は、平成19年にインドの首都であるデリー準州と友好提携を締結し、環境、青少年、文化遺産などの分野で交流を進めてきた。

来年度は、デリー準州との友好提携15周年という節目の年であり、これを機に改めて、双方にメリットがある交流を進めたい。

デリー準州からは、教育関係者の研修など新たなニーズが寄せられている。本県からも、将来を担う国際人材の育成に資する青少年交流などを提案している。来年予定されているデリー準州訪問時には、今後の交流について合意を得たいと考えている。

樋口 北米・南米の県人会との交流について

知事 県では、毎年、県人会の若者を県内大学等に1年間県費留学生として受け入れており、この数はこれまでに449名に上っている。

また、県人会の子どもたちを招いて、日本文化・ホームステイ等のプログラムも実施している。引率者を含め、これまで349名の方々が本県を訪れている。

来年度は、ペルーで県人会の世界大会が開催され、私も現地を訪問し、県人会との絆を深めたいと考えている。

議会録画



令和4年
2月定例会
一般質問



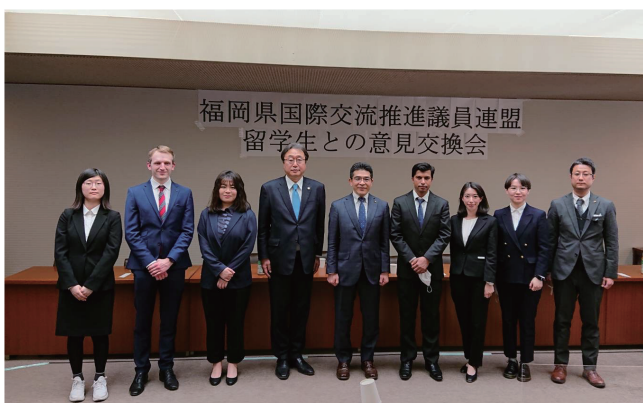
国連人間居住計画(ハビタット)福岡本部視察

1997年にアジア太平洋地域を担当するハビタット福岡本部が福岡市に開設されました。日本には29の国連機関があり、その殆どは東京にあります。その内の一つが福岡にあることは大変名誉なこと、この街の価値を高めるものと思っています。



党改革実行本部 党改革Webキャラバン

岸田総裁は党改革を最重要課題と位置付けており、茂木幹事長の下で党本部と都道府県連が一緒になり大胆な党改革に取り組む考えです。webキャラバンを通じて、我々の声を反映して頂き、岸田総理には党改革を推進して頂きたいと思ひます。



国際交流推進議員連盟 講演会

本県の留学生をお招きし意見交換致しました。福岡の生活や福岡を留学先に選んだ理由などについて話を伺いまちづくりの良いヒントを頂きました。今後も福岡を留学先に選んでもらえるよう、魅力的なまちづくりに取り組んで参ります。



福岡県在住 ウクライナの皆様とのご面会

福岡県在住のウクライナの皆様が県議会を訪問されました。ウクライナの現状についてお聞かせ頂き、本当に胸が塞がる思いが致しました。福岡県議会議長からウクライナの皆様に、福岡県としてでき得る限りのご支援とご協力をさせていただくことをお約束致しました。



福岡県議会議副議長 就任祝賀会

昨年11月当時の副議長が久留米市長選挙に立候補した為、副議長は空席となっていました。12月の県議会で仁戸田元氣氏が副議長に就任することとなりました。新副議長と共に県政発展のため頑張る参ります。仁戸田氏の副議長御就任、誠におめでとうござひます。



「ハーブ愛好家を広げる会」義援金贈呈

「ハーブ愛好家を広げる会」が20周年を迎え記念晩餐会が開催されました。ハーブの会は5年毎にチャリティイベントを開催しており、今回は福岡県を通じてウクライナへの義援金を出させて頂きました。私はこの会の相談役を務めており、会を代表して服部知事にお渡しました。

脊振の息吹

ロシアがウクライナに侵攻し、戦争が始まった。子どもや女性、高齢者等、一般人が多数犠牲となっており、言い表せない程の怒りと悲しみを覚える。ロシアとウクライナの為政者やアメリカ、ヨーロッパをはじめ、世界の国々がこの戦争を未然に防げなかったことが悔やまれてならない。

ロシアの侵攻に対し、ウクライナのゼレンスキー大統領は国の自由と主権を守るために徹底抗戦している。

戦況が危うくなると見るや、敵前逃亡する為政者は近年でもいたが、ゼレンスキー氏は国のリーダーとしてウクライナに留まり戦っている。この勇敢な姿勢は心から称えたい。

しかし、私は今ウクライナで起きていることと過去の日本の戦争とを重ねてしまひ徹底抗戦については、どうしても肯定的に捉えることができないでいる。

第二次世界大戦で日本がアメリカに徹底抗戦した末に失われた尊い命だ。

本土決戦となった戦争末期は、日本の多くの街が焦土と化した。

今のウクライナはどうだろうか。

一般人の犠牲者は増え、街は破壊され続けている。この状況だけを捉えれば戦時中の日本の惨状と同じだ。他国に侵攻された以上、祖国防衛のため反撃するのは当然だが、自国領内での徹底抗戦は、夥しい数の犠牲者を出してしまう。

日本人はそのことを誰よりもわかつていると思ひ。

自由と主権を守ることが国家と言うまでもないことだ。しかし、ウクライナではその自由と主権を守るために、既に多くの犠牲者を払っている。理由がどうであれ侵攻された以上、仕方がなかったで済まされてよい話では決してない。

政治の最大の使命は、国民の生命を守ることだ。だから戦争をしてはいけないし、回避しなくてはならない。そうならなかったことは、政治的敗北だと私は思ひ。

先日、福岡県在住のウクライナの方々から県議会を訪れた際にウクライナ色の手作りのリボンを頂いた。

このリボンに込められた想いをしっかりと心に刻みたい。

